

# 閉じない障子

景観を絞り、好間を創る和室



## 〔手法〕 好間 - すきま

戸が不完全に開いたとき、隙間の奥に広がる景色が無性に気になってしまい覗いてしまう。そのような好奇心をかりたてる場を好間と名付けた。

障子の間に閉じることない隙間を設けることで、そこから差し込む景色や光を好きなかたちに整えることができる空間。障子をはめ込むレールを一行にし、障子枠を大きく設けることで、常に隙間ができるようにする。障子によって空間を隔てるのではなく、隙間を楽しむ場を目指す。この空間を南面に向け設置すれば、障子の隙間から光が差し込み、心地善く室内を照らし出す。光は室内の奥まで延びてゆき、床や壁に美しい筋が描かれる。北面に向け設置すれば、隙間から外の景色が望め、少ししか見えないもどかしい気持ちや、隠されて見えない景色を想像する楽しみを与える空間となる。